

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0592200042		
法人名	有限会社シャトル		
事業所名	グループホームことおか		
所在地	秋田県山本郡三種町鹿渡字千刈田255-1		
自己評価作成日	令和2年6月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のどかで、四季を感じる環境の中で、花づくりや畑で収穫した野菜で食卓を潤している。種から育てた花は利用者のそれぞれの持っている能力を活かし、創作した作品を地域の方たちに還元している。又、創立当初から続いている彼岸花作りもお世話になった方たちや御家族に喜んで頂いている。選べるメニューや調理レクリエーション、材料調達から利用者参加で行っている。利用者の喜びは職員の喜びとして理念を基準に笑顔を決やせずに頑張っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

沿線にあり、周りを自然に囲まれたのどかな環境に立地している。利用者および職員が互いに良い関係を築きながら、楽しく日常を過ごしている様子が印象的であった。外出支援等これまで積極的に取り入れていたが、コロナ禍により容易に外出できない状況にあってもレクリエーションや運動など様々な活動を日常生活に取り入れ、常に利用者が参加しながら楽しく過ごせる機会を提供していた。支援する職員については、それぞれに違った個性があることを認識し、皆が自分の持ち味を積極的に支援に活かしており、互いに連携しながら管理者を中心に、常に利用者にとっての最良の支援について検討している様子がうかがえた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念”みんなの笑顔で創り上げる心の和”は職員の心に根付いている。出勤時には神棚に手を合わせ一日の安全を願うという決まりごとがあり、その際には基本理念も合わせて目に入るように貼り出している。	開設当初から掲げられた理念であり、玄関や職員室など目に付く場所に掲示されていた。職員の支援にも理念が反映されており、職員皆が意識しながら支援に当たっていた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	「地域の方たちに支えられている」を心に置き、利用者と共に創りあげた作品を交通安全運動の場で参加者に贈呈した。恒例の文化祭でも来場者にその作品をプレゼントした。そこでは、知り合いの方たちとの再会もあり利用者の感動もみられた。	福祉ボランティアを通じた高校生との交流、交通安全運動に参加しての地域住民との交流、地域のこどもたちを招待してのクリスマス会など、積極的に地域とかかわろうとする姿勢がうかがえた。さらに、日中活動で作成した作品を近隣住宅に直接届けることで、地域との関係が途切れないように取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	近隣の方たちが年中行事の度に例えば節句に桃の花、そして十五夜にはすすきや萩といった、四季の花々など届けて下さる。又、高校へ出かけての交流、小さい子供から小中高生参加のクリスマス会では、日々の支援の方法や認知症の人を理解いただく大切な行事と思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には毎回利用者の参加もあり、得意の歌を披露したり委員の皆様にお茶を出したりと、会議の場が和めるような雰囲気作りをし、利用者も自信を持てる貴重な場となっている。情報交換での意見や助言は重く受け止め、日々のケアに繋げている。	三種町職員、民生委員、自治会長、地域ボランティア等外部からの参加者が多く、また利用者も参加して実施していた。三種町職員からは、介護・福祉に関する行政の取り組み内容が報告されており、行政との情報交換が頻繁に行われる良好な関係を築いていた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎回町の職員の参加があり、事業所の活動を理解頂いている。相談には親身に応じて下さり、助言など頂きそれを日々の介護に活かし支援後は会議の中で取り上げ報告している。	運営推進会議での連携と共に、利用者の入退去情報については都度情報交換を行っている。役場主催の介護従事者向け研修会にも事業所から参加しており、連携が図られていることが確認できた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修に取り上げ、レポート提出することで意識の低下を防いでいる。不明瞭な点は会議の中で出しあい話し合うようにし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。(身体拘束の事例はなし)	身体拘束防止に係るマニュアルを整備しており、これまでも身体拘束の事例はないとのことであった。社内研修でも身体拘束の予防をテーマに取り上げ、また常に利用者の状況を会議で互いに共有し、支援内容を検討することで不適切な支援にならないよう留意している。	委員会の組織、研修の実施及び取組の周知を推進し、現在の取組みをさらに広げられるよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回は社内研修で学び日々の生活の中でお互いを感じたことは即日話し合うようにしている。小さな芽も見逃すことのないよう防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットなどの活用で権利擁護制度及び成年後見制度について学んでいる。利用者数名が活用しており、関係者とは密に連絡を取り合い、支援に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の不安や疑問点を十分聞き入れながら契約等の対応をしている。改定時は文書発送するとともに面会時にも説明をし、理解を得るようにしている。不明時はいつでも対応出来るように準備を整えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の利用者の家族への言葉などをお聞きし、それに対しての家族からの要望や意見を出せるような場を設け、個別ケアへ反映させている。	利用者には、毎年[食事][入浴][行事・活動][職員]などについて6項目の満足度アンケートを行い、定期的にサービスや運営についての意見を確認している。また、日々の支援の中でも本人の意向や要望があった際には職員同士で情報共有し検討するよう努めている。また、家族からは、利用料の支払いや面会時に要望を伺っているとのこと。	利用者への満足度アンケートと同様に、利用者家族からの意見要望を拾い上げる取り組みを広げることに期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議に出席している施設長は事業所職員の努力を理解してくれている。職員の意見や提案は、管理者会議の中で報告し社長へつなぎ、親睦会に於いても意見の交換が出来る機会を設けている。	施設の運営に対しては、常に職員同士の検討から、管理者、施設長に要望を出せるような体制づくりがされていた。最近では、グループホームの庭で利用者と職員と一緒に家庭菜園を行っているが、皆の要望により野菜等の保存用に専用の冷蔵庫を購入している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の努力・実績・勤務状況を個々に評価し把握することで給与・賞与に反映させ、向上心に繋げている。労働時間や就業時間体系に不安な時は、代表者を含め話し合えるような環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に対する相談や希望の研修受講の機会を確保するよう努めている。毎月の社内研修は質疑応答がしやすいような場面設定をし実践に活かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のイベント参加や研修参加時に得る情報はとても重要であり、各会議等で伝達し施設のサービスの質を向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御家族・関係者から得た事前の情報を基に本人の不安・困りごと等、お話を聞きその表情から出るサインを読み取り、安心に繋げた信頼関係作りにも努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族それぞれの立場に立った不安、困りごと、要望などを話しやすいような雰囲気作りを常に意識するように努めている。			
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活全般において職員中心ではなく常にその中には利用者の存在があることを意識付けている。共に支え合いながら生活する関係である。			
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族・親と子それぞれの持つ関係性や絆を大切に、相互に支え合う関係作りにも力を入れている。時には家族の方に協力を願うこともあるが、その時には感謝の気持ちを忘れないようにしている。			
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	元成年後見人を担当していた方とその後交流を続けている。面会が出来ない現状でも電話連絡をしてお互いの状況を報告しあっている。又、馴染みの呉服店へ買い物に出掛け関係が途切れないよう支援している。	利用者が外出する際には、出来るだけ本人の自宅周辺を回って帰るよう配慮したり、本人との会話の中に出てきた慣れ親しんだ方を訪問したりと、本人の入居以前の馴染みの関係性が途切れないように支援していた。		
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ほぼ全ての利用者がホールで過ごす時間が多くその時は職員の見守り・気配りで孤立することのないようにしている。利用者同士が支え合い、そして居心地のいい時間となるよう支援に努めている。			
21		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調悪化により入院後退所となった家族とも連絡を取り合い経過をフォローし相談にのっている。これまでの関係が途切れないよう支援に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面会時の家族との会話、趣味や地域活動の仲間との会話から、また入浴や夜勤帯でのやりとり、日々の暮らしの中でふと漏らした言葉などから心の声を探り、カンファレンスで検討。本人の立場に立ったプランの作成に努めている。	利用者への満足度アンケートでは、担当職員が利用者と対面で時間をかけて実施しており、出来るだけ本人の想いを拾い上げる取組みがなされていた。また、入浴時など個別に支援する際にも、会話を工夫しながら本人が想いを表出できるように配慮しているとのことであった。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴は常に重視している。家族や関係者から折に触れ情報を得、共に暮らす(接する)中で本人にとっての生き甲斐を見出すように努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りを有効活用し、職員間で情報共有。細やかに目配りすることで身体状態の少しの変化にも気を付けるよう努めている。異変時は即時対応に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者に担当職員を配置し、個々のケアにより目が行き届くようにしている。本人や家族関係者も含めて情報を出し合い、現状に合った介護計画を作成している。	担当職員が、利用者の生活上の課題や要望を出した後、他の職員から意見を貰い気づきやアドバイスを計画に反映させている。ケース検討は全利用者について毎月実施しており、会議では職員全員からそれぞれの意見を発言してもらえるよう、配慮しながら進められていた。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の発した言葉をそのまま残した介護記録をはじめ、他者も交えて一日の様子を記した業務日誌など、実践→結果→工夫も全て記録に残している。その情報を新たな実践や介護計画見直しに活かしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	駐在所や盆供養のために松庵寺の住職との交流が定着。近所の地域ボランティアは季節ごとに庭で育てた花を届けてくれる。さまざまな人々に支えられ安全で豊かな生活を送れるよう支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望はむろんのこと、家族の意向も大事にした受診を行っている。主治医への細やかな情報提供に努めており、地域の薬局から専門的なアドバイスももらっている。	週に2回、近隣の内科医院からの定期的な往診により、定期受診及び体調不良者の受診を行っており、また病状によってはそれぞれのかかりつけ医を受診する体制をとっている。かかりつけの薬局についても近隣の薬局から協力してもらい、用法や副作用など薬に関するアドバイスを頂くなど良好な関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で気付いたこと、心配事・疑問など月2回の訪問看護師や週2回往診に同行する看護師に報告して助言をもらい、必要時は早期受診を心掛けている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とは常に緊密な関係を維持するよう努力している。小さなことでも情報提供し、相談に乗ってもらうことで本人・家族ともに安心して治療に専念できるように努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	面会時、本人を含め家族との話し合いの場を設け、まずは希望や意向を聞き取る。そして重症化した場合の指針や医療連携体制の説明を十分した上で方針を共有。今後の支援に活かす努力をしている。	重症化した場合のグループホームの指針を作成し、入居契約時に本人・家族への説明を行っている。利用者の状況が変わってしまった場合には、都度ご家族に対して今後の見通しを説明し、不安の解消に努めている。特に、近隣施設との連携を大事にしており、利用者の重症化による施設移行についてもスムーズに行えるようにしている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはいつでも目の届くところに常備し、速やかに初期対応できるよう勉強会で確認し合っている。隣接のショートステイにはAEDが設置してあり、不安な面に関して看護師に相談することも出来る。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	親会社である建設会社の協力に加え、近隣住民にチラシを配布。施設の課題を理解頂き、協力体制を整備。避難訓練では地元消防団からの応援もあり施設の立地条件など知ってもらった機会になった。	定期的に近隣住民宅を回り、利用者の作成した作品を手渡ししながら、グループホームを広く周知するとともに、災害時に駆け付けなどの協力をお願いする取組みを行っている。了承を得られた方で「災害時の地域協力隊」として連絡網を作成し、災害に備えるとともに、地域との関係が切れないうよう努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設の基本理念を心に留め、笑顔と思いやりで接することを心掛けている。利用者一人ひとりを知った上で人格や誇りを尊重。プライバシーに関して繰り返し勉強会で確認し合い、日々の対応に努めている。	プライバシー保護マニュアルを作成し、会議ではプライバシーに配慮した支援を考える機会を設けている。プライバシーにかかわることはできるだけ本人と居室などで1対1で話し合うよう配慮している。また意識を高める研修は隣接するショートステイと合同で行っており、職員の資質の向上にも努めている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	信頼関係に根差した会話や普段の行動・表情を観察。その上でせかすことのないよう自然な方法で待つことにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	情報(家族・関係者等)を基にし、入所時は特に在宅時の生活ペースを変えないように配慮している。一人ひとりのその日の体調に合った時間配分にし、本人の意思に沿えるように支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に応じて職員と一緒に買い物に出掛け、本人の好みや、ふさわしい物を選ぶように支援している。家族の意向も取り入れながら、その人らしいおしゃれが楽しめるように努めている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	バラエティーに富んだメニューの提供。見て楽しみ、食べて満足感得られる調理工夫を大切にしている。利用者がメニューを選ぶ「選べるメニュー」の導入。「調理レクリエーション」では、利用者がスーパーに出掛け買出しをし、役割分担し調理器具等を使い楽しんで調理し、食後、食器やお盆拭き等の片付けもして頂いている。	選択メニューや買い物外出、またホームの庭では家庭菜園を行っている。様々な野菜を植え、利用者職員が協力して日頃の管理から収穫まで行っている。食事を選択する楽しみ、買い物をする楽しみ、皆で調理する楽しみ、などを日中活動にも取り入れ、食事を“楽しむ”ための取組みを工夫を凝らして取り組んでいる。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の個々の水分量が一目で分かる表を作っている。個人別の記録表には、一食毎の食事摂取量、残した品名から何が不足が把握できるように記載し、一人ひとりの状態に応じた支援をしている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の力に合わせた介助方法でケアを行っている。舌苔の観察は怠らないよう職員に周知し徹底している。毎日夕食後には、口腔ケア用品・義歯の洗浄・殺菌も欠かさず行っている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	加齢に伴い機能の低下が著しくなり介護の度合いが進んでいる現状の中で、個々の排泄パターンを記録する事で情報を共有しながら排泄支援に努め、さりげない誘導でプライバシーを尊重し自立に向けた支援をしている。	運動や水分補給に留意しながら、本人の自立した排泄を心掛けている。バイタルチェック表を作成し、利用者の水分補給、排泄状況を確認しながら、個々の排泄パターンを職員で把握・共有しており、また受診時における報告などにも活用している。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体調管理する上で排泄の重要性をよく理解し、水分補給・調理方法等の工夫、日課の中で適度な運動(リズム運動・体操・レクリエーション等)を楽しんで参加できるように工夫し、自然排便に向けた対応に力を入れている。	
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者個々の心身の状況を見極め、本人が気持ち良く入浴できるように心掛けている。時にはお湯の色・香りを変え気分転換できるように配慮している。入浴後の利用者の満足した表情は職員の喜びでもある。又、タイミングが本人の意向に沿わない時には、時間をずらす等余裕を持った支援をしている。	入浴日は月・水・金曜日を原則としているが、利用者の身体状況により随時入浴サービスを提供している。また、入浴の順番についてもその日の気分や体調に合わせて、柔軟に対応しているとのことであった。浴室は3方向から介助できる浴槽が備えられ、安心して入浴が楽しめる空間となっていた。
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体力に見合わせた運動やレクリエーション、ドライブする等で快い睡眠がとれるように支援している。本人の希望や、疲れている時等状態を見極め休息を取り入れるような支援もしている。	
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護職では判断できない薬の用法・用量かつ副作用等に関し、利用者個々のファイルに明記し処方に変更が生じた時には速やかに訂正情報の共有に努めている。服薬介助後は体調の変化を見逃さないよう観察に努め、医療機関との連携、薬局などからも情報やアドバイスを得ている。	
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中から個々の能力・残存機能を見極めた上での創作活動。完成後、達成感を職員と共に喜びを分かち合う事を大切にしている。作業や手伝い後は労いや感謝の言葉掛けをし、役割分担には格差がでないような配慮・気配りをしている。	
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別プログラムに沿って、職員が同行し近場の図書館へ出向き、好きな本を借りたり希望に沿う支援をしている。イベント参加やドライブには全員参加をモットーにしている。又、祝い事には家族の協力を得ながら外出の支援をしている。	家族の協力のもと家に帰宅したり、職員と支援により地元の馴染みの場所を訪問したりと外出支援にも力を入れている。例年お盆の時期は墓参りなどの外出支援も行っているが、今年は新型コロナウイルスの影響で外出が難しいため、お坊さんにグループホームに来てもらってお経をあげてもらうことも検討しており、利用者の要望を最大限取入れながら支援している。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の同意を得た上で、職員が同行し洋品店へ出向く。好みの洋服を選びレジで支払いする事で買い物の楽しさ、お金の大切さを感じて頂いている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	恒例の暑中見舞い・年賀状は手作りしている。個々の能力に応じ直筆や代筆し、コミュニケーションをとりながら、家族や相手に本人の思いが伝わるように支援している。家族や知人への電話は深夜以外いつでもできるように対応している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の環境整備に努め、居室内換気、温度調整、加湿器の設置等快適に過ごして頂けるよう配慮。野の花や、近隣の方から頂く季節の花々を飾り、壁面には創作活動で創った季節感あふれる創作物で、四季を感じて頂いている。	デイルーム、玄関などは各所に花を置くなどして季節感を大切に空間となっており、窓からは列車の往来を望むことができた。また壁には利用者が日中活動で作成した作品と共に活動場面の写真も貼られており、作成までの過程が分かるように丁寧に掲示されていた。初めて訪れる人にとっては、それらを見るだけで施設の普段の取り組みが良く分かる共用空間づくりがされていた。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中殆どの利用者がホールで過ごしており、それぞれ気の合った者同士、相性を見て席を取るようにして、トラブルが発生しないように職員が目配りを怠らぬに見守っている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時の馴染みの物(写真・作品等)を居室内に飾り、行事の写真を貼ったり、本人の作った作品を居室内に提示し心地よく過ごせるように支援している。又、夫や息子の月命日には写真の前にご飯を供えるなど本人のこれまでの生活を継続できるようにしている。	居室には、利用者それぞれ思い出の品を持ち込んでおり、日常取り組んだ作品なども飾られていた。身体状況等に合わせ家具が配置され、居心地よい空間づくりに取り組んでいた。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	9人9様出来る事、わかる事が違い、職員はそれぞれの力を踏まえる事で安全安心そして自立できるような支援を心掛けている。移動場所全てに手すりがあり、車椅子利用者においても余裕のあるスペースを確保。各居室やトイレ等は大きな文字で表示する等、戸惑う事の無いように配慮している。		